

## 京都大学原子炉実験所の安全性等について

東京電力福島第一原子力発電所で発生した原子力災害を踏まえ、京都大学原子炉実験所の研究用原子炉（KUR）の安全性等について、次のとおり対応しております。

### 1. 原子炉施設の再稼働に向けてについて

#### ①京都大学研究用原子炉（KUR）の状況について

現在KUR (Kyoto University Research Reactor)は、平成26年5月26日から施設定期検査期間中となり運転を停止しております。

この期間中に新規規制基準（原子力規制委員会により平成25年12月18日付けで施行された試験研究用等原子炉施設の新規制基準。以下同じ）への適合確認を受けるため、平成26年9月30日付けで原子炉設置変更承認申請書を原子力規制委員会あてに提出いたしました。その後、ヒアリング及び審査会合の場で新規規制基準への適合状況の確認が行われ、本年6月14日の審査会合において、全ての論点が確認されたとの見解が原子力規制委員により示されました。これらの審査の過程で、申請書の修正（補正）が、本年4月27日、6月22日、6月27日、7月13日及び7月20日付けで行われ、7月27日に開催された原子力規制委員会において、KURの原子炉設置変更承認申請書が新規規制基準に適合していることを示す審査書案が了承され、事実上の合格を得たところです。（平成28年8月19日時点）。

審査においては、基準地震動や竜巻、森林火災などの外部事象、想定を超えて多量の放射性物質等を放出する事故の対策などの新たに規制対象となった事項を中心に審議が行われました。申請書の承認（合格）後も、保安規定の改定、改造工事（安全保護回路の一部変更、非常用電源の強化、火災・竜巻対策等）に関する許可申請及び工事の実施が必要であり、その後に使用前検査及び施設定期検査が行われ、運転再開となる予定です。

皆様には、種々ご心配をおかけしますが、早期の運転再開を目指して鋭意努力いたしておりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いたします。

#### ②京都大学臨界集合体実験装置（KUCA）の状況について

現在KUCA (Kyoto University Critical Assembly)は、平成26年3月10日から施設定期検査期間中となり運転を停止しております。

この期間中に新規規制基準への適合確認を受けるため、平成26年9月30日付けで原子炉設置変更承認申請書を原子力規制委員会あてに提出いたしました。その後、原子力規制庁によるヒアリングが開始さ

れました。なお、KUCAは低出力炉のため公開の審査会合ではなく原子力規制庁によるヒアリングによる審査となります。ただし、平成27年5月29日及び平成28年2月12日にはKUCA審査の進捗状況についての審査会合が開催されています。この審査の過程で、申請書の修正が行われ、平成27年9月30日、12月10日及び平成28年3月31日付けで補正申請書を提出しています。本年5月11日に開催された原子力規制委員会において、審査の報告書である審査書が承認され、同日付けで設置変更申請書が承認されました。

その後、保安規定改定のため申請を行うとともに、改造工事（安全保護回路の一部変更、無停電電源設置、火災対策など）のための申請を行っており、それらの申請の承認後、改造工事の実施、さらに使用前検査及び施設定期検査が行われ、運転再開となる予定です。

皆様には、種々ご心配をおかけしますが、早期の運転再開を目指して鋭意努力いたしておりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 2. 核セキュリティ・サミットを受けての対応について

今年の3月31日から4月1日の間に開催された核セキュリティ・サミットにおいて発表された日米首脳の間共同声明の中で、京都大学臨界集合体実験装置（KUCA）で使われている高濃縮ウラン燃料を米国へ返還すること及びKUCAを低濃縮化することが表明されました。この件につきましては、これまでの経緯と返還予定の高濃縮ウラン燃料等に関する内容を別添資料に取り纏めております。本学（当実験所）としては、今後、日米合意の趣旨に基づき関係機関の協力のもと、高濃縮ウラン燃料の返還等を着実に実施していきたいと考えております。

なお、当実験所では原子力規制庁、大阪府警本部、泉佐野警察署との綿密な連携のもとに高濃縮ウランに対するセキュリティ対策の維持・向上に努めており、加えて、自主的に警戒設備の機能向上、警備体制の強化などのセキュリティ強化を行いながら、地域住民の皆様安心して頂けるよう、安全管理を引き続き徹底いたします。

### \* 以下、核セキュリティ協力に関する日米共同声明の抜粋

本日、両国は、京都大学臨界集合体実験装置(KUCA)の全ての<sup>\*</sup>HEU燃料を米国に撤去し、希釈し、恒久的に脅威を削減するために協働するとの表明により、世界規模でのHEUの保有量の最小化の取組に貢献するための両国の更なる決意を示す。この撤去は、技術的及び経済的に可能な場合に、KUCAをHEU燃料を利用する原子炉から<sup>\*</sup>LEU燃料を利用する原子炉に転換することで可能となる。KUCAは、核テロリストによる盗難や使用のリスクをもたらさない燃料を用いて、関連研究や人材育成といった重要な役割を引き続き果たすこととなる。

※ HEU…高濃縮ウラン、LEU…低濃縮ウラン